

IV. 研究のまとめ

1. 研究主題について

【先生方からのご意見】

- ₁ 適切だったと思います。勉強不足でしたので、先生の資料がとても勉強になりました。
- ₂ 自らの問いを原動力とするところに焦点をあてて授業し、本時のねらいを達成できるよう見方・考え方を広げることができました。
- ₃ 今、子供にとって必要な学びの観点から、このテーマはとても良いと思う。
- ₄ 研究主題は、昨年度の内容も継続しつつであり、適切であったと思います。たくさんの資料の中から、いつも要点をまとめて提示していただきありがとうございました。
- ₅ 昨年、「問い」についての研究を深めてきました。今年度はさらにレベルアップして、児童が自ら「問い」を持つということに取り組みました。それが学習の始まりということ、教師・子供ともに確認できて良かったです。
- ₆ 新学習指導要領の目指す子供の力を、校内研究のスタートで研究主任が、難しい文言などをわかりやすい言葉や図表で解説してくれたり、授業のイメージから噛み砕いて説明してくれたりスタート時にしっかり学ぶことができました。また、それをもとに、授業を構成するように努めました。
- ₇ 適切でした。
- ₈ 資料が大変分かりやすかったです。また、実際に授業を行い、先生方にご指導をいただき、勉強になりました。
- ₉ 研究主題はとてもよかったと思う。
- ₁₀ 様々な資料を随時出していただいたので、学習できました。共通理解もでき良かったと思います。今後も、継続して、理解を深める学習をしていきたいです。
- ₁₁ 研究主題は、昨年度からの研究とも新COSとも関わりがある適切なものであったと思います。

【まとめ】

研究主題については、「問い」について昨年度からの継続研究ということもあり、適切だったという意見が多かった。○₅の記述にあるように、「児童が問いを持つことが学習の始まり」ということを意識して授業を組み立てることにより、主題に迫ることができた。また、○₂○₃の記述にあるように、「自ら問う」姿を求める本校の研究と、新COSの理念は合致しているといえる。これからの時代を生きていく子供に身に付けさせたい最も大切な力の一つであるため、主題は適切だったといえる。

2. 研究の内容

(1) 「新COSの『育成を目指す資質・能力』の具体的な姿を探る」について

【先生方からのご意見】

- ₁ 「はかせ（速い簡単正確）」を意識して取り組み、児童もそれに合う形で考えを書いていました。
- ₂ 既習の学習を用いて考えたり、発表の際にその教科の語句を用いて説明したりする姿が見られるようになってきました。
- ₃ 今年度の研究では、広くいろいろな分野のことを学ぶことができた。
- ₄ 道徳の見方・考え方はやはり「書く」ことを通して自分を見つめなおすことができると思う。その上で、みんなで考えを交流し合い、学び合うことでその子なりに深い学びができる。教師も子供の内面が分かり、次への指導に役立てることができた。今後、道徳的判断力が実践力につながるよ

う支援し、子供も自分を振り返る（メタ認知ができる）手立てを考えていきたい。

- ₅新 COS についてたくさんの資料を集め、学習する機会をつくってくださりありがとうございました。実践をこれから積んでいきたいです。
- ₆道徳的な価値への達成に向けて、多角的・多面的な考えをできるだけ出せるように発問を工夫しました。たくさん出てきた考えをもとに、子供たちが他の児童の考えや体験、さらには感動を共有し合うことができた授業が多く見られました。それが、道徳的な価値へ導き、気づかせることにつながられたと思います。
- ₇子供たちが自分自身に問いかけるためには、比較検討での教師の言葉かけが大事であることに気付くいい機会になりました。
- ₈公開時からの継続的な取り組み（土台）の上に、今年度の研究があったので、
 - ① 「知識技能」の相互に関連付けられた知識を児童が使おうとしていることがあった。
 - ② 「思考力・判断力・表現力等」では、次へつながる振り返りやまとめなどの段階で児童の言葉を使ってまとめていく作業を行ってきた。
 - ③ 「学びに向かう力・人間性」については、まだまだなところがあるので、これから少しずつ取り組みを行っていきたい。
- ₉子供たちの考えが繋がるように発問を工夫しました。自分の考えだけでなく、他者の考えを理解しようとする姿や図、式、言葉を積極的に用いて説明する姿が多く見られるようになりました。
- ₁ 3つの資質・能力を習得できているかどうかをみとる視点や方法も研究できるとよかったです
- ₂ 一つのことを深めていくやり方も経験してみたいと思いました。
- ₃ 自分の力不足もあるが、研究主題と研究の内容が自分の中で結びつかなかった。絞った内容にしていくといいかと感じた。

【まとめ】

本年度の研究の大きな目的は、新 COS を周知徹底することだった。われわれ現場の教師がすべきは、授業を通して具体的な姿を明らかにすることである。そのため、次の「育成を目指す資質・能力」に焦点を絞り、それらの姿を授業で探っていくこととした。

知識・技能 …「知識を関連づけて覚える」
…「主体的に活用できる技能を身に付ける」

思考力・判断力・表現力等 …「課題を自分で見つける」
…「次の課題を自分で設定する」

学びに向かう力・人間性等 …「メタ認知」

「知識・技能」についての具体的な姿は、○₂のような姿だということがいえる。既習の知識を用いて新たな知識を獲得するという行為そのものが、新 COS が育成を目指す知識・技能の一つといってもよいのかもしれない。これらの知識・技能の育成を目指すには、1時間の授業と授業をつないだり、単元と単元をつないだり、さらには他教科とつなぐことを念頭に置いて授業をつくったりしていく必要がある。そのためには、深い教材研究を通して、教科の前後の系統を意識することや、他教科と関連している部分をカリキュラムに反映させることなどを考えていきたい。

「思考力・判断力・表現力等」については、ここ数年本校の校内研で研究してきた内容なので、かなり身に付いてきているといえる。新 COS で強調しているのが、自ら問題を見いだして PDCA サイクルで問題解決を行うことである。まず教師がすべきことは、子供が自分で解決してみたいと思えるような課題に出会わせることである。これは、子供が「自ら問う」きっかけを教師が「しかける」と言い換えることもできる。

「学びに向かう力・人間性等」については、特に「メタ認知」について研究を進めてきた。○₄の記述にあるように、有効なのが「書く活動」であると言える。特に学習後に「学習感想」を書くことによ

り、自身が学習前と比べどのように変容したのかを振り返ることができる。教師がすべきことは、個に応じた指導や支援をして、子供が学んだことを実感できるような学習活動を充実させていくことである。

●₂●₃については、今年度は新 COS を周知徹底する年度だったため、あえて内容を幅広く解釈する手法を取った。来年度から先行実施が可能なので、今年度の研究を生かしつつ、内容を狭めて取り組んでもよいのかもしれない。●₁については、今年度は3つの資質・能力がどのようなものかを探るための研究にとどまっていたので、とてもハードルの高い研究といえる。今年度の研究を通して、少しだけ3つの資質・能力の具体像が見えてきたので、来年度以降は研究できるかもしれない。

(2) 『見方・考え方』の具体的な姿を探る』について

【先生方からのご意見】

- ₁ 学習活動のなかに、話す・聞くことの指導や学び合いの場を取り入れたことで、多様な考えにふれ共感共有する子供の姿が見られるようになりました。
- ₂ 算数の学習において、自力解決には言葉、図、式を意識して書かせた。自分の考えを表すのにどれがよいのか児童も考えて取り組む姿勢が見られ、図に式や言葉を加えて説明するなど多様な方法で表現することができていた。
- ₃ 問い返すことを意識し、友だちの意見を他の児童に説明させる場面などを増やすことで、説明できなかった児童が説明出来るようになっていったように感じる。
- ₄ 例えば算数の学習では、問題に書かれていることを、一つの表現に限らずに、図に表したら、式では、言葉では、などいろいろな方法で表そうとする子供たちが増えてきました。
- ₅ 算数の「資料の特徴を調べよう」の学習で、2つの鶏小屋を比べて「重い卵がよく産まれたのはどっち？」という問題に対して、「重い」という基準をどうみるか、という課題が生まれた。そこで、どんな基準が考えられるか問い、「グラフに表してみると〈ここからが重い〉という基準が分かりやすい」という意見が出たので、グラフに表して考えた。
- ₆ 算数では、自力解決時に図、式、言葉、そして数直線を取り上げ、子供たちが自分の解決しやすい考えやすいやり方で考えられるようになってきました。また、比較検討時に、図⇔式⇔言葉を相互に関連付けて考えられるようになってきていて、数への見方、考え方が広がりつつあると思います。
- ₇ 算数の時間では、比較検討の時間を多く設けて、子供たちの多様な意見を学級全体で共有することで、多面的な見方・考え方ができるようになってきていると感じます。
- ₈ 道徳の授業での、話し合い活動を通して、友だちの意見を聞き、自分自身の考え方や生き方について改める姿がみられた。多面的・多角的に物事をとらえることができるようになってきた。
- ₉ 本年度 道徳に例年より重きをおいて実践できたことで、子供たちの道徳の見方・考え方にかかわる内容について、児童自身が考える場面が多かった。学校生活の場面に生かすことも少しずつできるようになってきている。（「人間性」の部分に関わる部分）
- ₁₀ 友達の考えを聞いて、自分の考えとの共通点や相違点を考え、よりよい方法を判断する姿が学習感想などから見られました。また、全体討議での自分の考えの伝え方とペアトークでの伝え方を変えて工夫している姿も見られました。

【まとめ】

新 COS の特長の一つは、全ての教科でそろえて「見方・考え方」を設定していることである。どの教科でも共通しているのが、教科特有の見方をして、その教科でしかできない考え方を、ということである。新 COS に示されている算数科と道徳の「見方・考え方」を再掲する。

- ・ 数学的な見方・考え方…事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること

・道徳の見方・考え方…道徳的諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方について考える（下線は筆者による）

これらは、「育成を目指す資質・能力」を育成するために必要な考え方の過程である。算数では、○₂ ○₄ ○₇、道徳では○₈のような成果を得た。これらをみると多様な考え、多面的・多角的な考えをすることができたといえる。課題をあげるとすれば、多様な考え、多面的・多角的な考えをすることの価値付けが必要、ということかもしれない。これらの考えの中には共通点や相違点があったり、よりよい考えがあったりする。ただ多くの考えを出させるだけではなく、○₅の「グラフで表す方法がいちばん」や、○₉の「学校生活に生かす」までを求めていきたい。これらが、教科特有の見方・考え方を生かして資質・能力を育成する姿なのかもしれない。

(3) 「自ら問う」について

【先生方からのご意見】

- ₁ 自力解決で考えが持てない児童もいる。しかし主体的に考える姿勢は大切だと思うし、考えが書けた喜びを味わわせたいと思うので、主体的に考えられるように引き続き授業づくりを工夫していきたい。
- ₂ 道徳の授業のなかで、子供たち自身が、果たしてどうだろうか、自分だったらどうだろうかと内省することができました。問いを持つことで学習が深まったと思います。
- ₃ これから成長する子供たちにとって、受け身ではなくまさに自ら問う主体的な活動が、大切だと思います。誰かが言ってくれる、やってくれることを待たず、まずは自分から、です。
- ₄ 子供たちから問いがでてくるような発問の工夫や、学習感想から「もっとこうしたい。」「こういう場合はどうなのか。」といった発展的な思いをとりあげて、次時に繋げるようにした。
- ₅ 既習内容や学習感想から問いにつながるものが多くなってきました。
- ₆ 既習内容に関して教師が言葉かけをすることで、問いを持つ場面が増えると感じました。
- ₇ この部分については、本年度一番意識した部分です。評価授業・師範授業のみならず 普段の授業でも「問い」を大事にしてきた。以前より、教師側、意識せず、自然に問うこともできるようになってきた。これからも継続していきたい。
- ₈ 毎時間の学習で、問題提示から出た子供たち自身の問いをもとに、授業のめあてを考えるようにしました。授業の週末でも新たな問いが生まれ、次時の課題に繋がることがありました。
- ₁ 教師自身は問いを意識することができたが、子供が問いを持ち続け、自ら深く学ぶという力には課題がある。来年度も継続して研究していきたい。
- ₂ なかなか実現出来なかった。これから気をつけていきたい。

【まとめ】

昨年度までは算数科、理科の研究で「問い」という言葉を用いてきたが、今年度は道徳にも適用できるよう、「自ら問う」という言葉の意味づけを「課題解決に向けて主体的に思考する」として研究を進めてきた。上記の記述からも、多くの成果を得ることができたといえる。まずは教師が「なぜそう考えたのか」「今まで学習してきたことの何が使えるか」「他によい考えはないか」「いつでもできるか」などを問うことで、次第に自ら問う子供が育ってきた。しかし、問いの様相は多様にある。各教科において、いつ、どんな「問い」が発生するか、その様相を探る必要がある。次年度以降も研究を続けていきたい。

(4) 「しかけ」について

【先生方からのご意見】

- ₁ 児童が興味を持つような教材の工夫。目盛りのない数直線など。
- ₂ 児童の考えいくつか取り上げ、「はかせ」を意識するとどれが好ましいかを考えさせること。発問。意欲をもって学習に取り組む姿が見られた。より簡単な方法を考えようとしていた。
- ₃ 学び合いの場を取り入れること、板書の工夫です
- ₄ 課題の提示の仕方、自立解決での支援、板書など、考えながら授業を進めてきました。教師がこれらの「しかけ」を意識することで授業力のアップにつながります。それが成果だと考えます。
- ₅ 導入で、興味を引けるように、課題や資料の提示を工夫しました。
- ₆ 実際にはうまくできなかったのですが板書も見やすく工夫しようと考えたことで、どういう風に授業をするか、自分の中で深めることにつながったと思っています。
- ₇ 本時のめあてを明確に板書し、めあてに沿ったまとめを書くようにした。板書のイメージをもって取り組んだ。
- ₈ 道徳の授業の時に、教師の考えを出さないようにしました。どの考えも間違いではない。すべての考えが受け入れられるべきであるという姿勢で臨みました。児童からたくさんの意見が出るようになり、児童が道徳の授業を楽しみにできるようになった。「しかけ」ではないかもしれませんが。
- ₉ 発問の工夫（特に、道徳では、達成する価値項目をしぼり、なおかつ価値の押しつけにならないように。）→子供たちが他の児童の考えや体験、さらには感動を共有し合うことができ、低学年ながらも話し合いにつなげられるような感じになってきた。
- ₁₀ 板書の工夫（子供の意見や考えをまとめ、授業や思考の流れが一目でわかるようにした）
→思考の可視化を図ることで、特に算数は、学習のまとめを子供が考え、自分の言葉で表そうとする姿が多く見られるようになった。
- ₁₁ 子供から多くの意見を引き出すことで、多面的な見方を持てるよう進めることを心掛けました。また、子供たちの言葉でまとめられるような問いかけをしました。
- ₁₂ 友だちの意見をきくことを意識させるように力を入れた。
- ₁₃ 今回の研究をしていく中で「しかけ」については、今まであまり意識していなかったように思う。今年度の研究で「しかけを意識」するようになり、授業改善につながってきていると思う。
- ₁₄ ・子供たちが主体的に学べるようにするための課題提示のしかけ
 - ・既習を意識させる見通しのもたせかたのしかけ
 - ・深い学びに繋げるための比較検討での問い
 - ・「なぜ？」と問うことで根拠を考えさせるしかけ

【まとめ】

「しかけ」を意識することが有効であることがわかった。研究同人が作成した「授業実践シート」からみえてきた「しかけ」は、おもに次の通りである。（詳しくは「授業実践シート」の項へ）

導入

- ・算数…「既習を確認し、解決の見通しを持たせる」「課題提示に変化を持たせる」「既習と未習を明確にして『問うべき問い』を引き出す」など
- ・道徳…「ICT（動画、静止映像）や写真、歌などを提示して興味を持たせる」「生活経験を想起させる」など

自力解決・比較検討、展開

- ・算数…「自力解決時に考えを収集し、比較検討の構成を練る」「多様な考えや表現を扱い、理解を深める」「考えの根拠を問う」「比較検討では徐々に洗練された考えを扱う」「複数の解決法を提示して『問うべき問い』を引き出す」など
- ・道徳…『問い返し』の発問でゆさぶりをかける」「ねらいとする価値だけに偏らないようにするための発問をする」「ペアの活動で考えを表出しやすくする」「資料を読み、本時のねらいに照らし

『問うべき問い』を考える」など

まとめ、終末

- ・算数…「子供自身でまとめができるように書き始めの言葉を提示したり、板書にキーワードを残したりする」「学習感想の視点を与える」など
- ・道徳…「資料と実体験を結びつける発問」「学びを深めるためにねらいに関連した名言を提示する」「感動を残すために資料の出典を明らかにする」など

板書等

- ・算数…「チョークの色づかいを意識した板書」「多様な考えや表現を構造的にまとめた板書」など
- ・道徳…「ねらいに的を絞ったワークシート」「価値が対比できるような構造的な板書」「学習前後の考えの変容がみえる板書」など

今年度、実に多様な「しかけ」が行われたことにより、子供が自ら問う環境をつくり出すことができたといえる。しかし、ここに記している以外にも、無意識に行われていたり、新たに見つけることができたりする、たくさんの「しかけ」が存在するはずである。来年度は、さらに多くの「しかけ」をみつめていくことで、研究主題に迫っていききたい。

(5)「家庭学習の習慣化」について

【先生方からのご意見】

- ₁ ノートの取り組みは、内容に個人差はあるが、毎日 40 分する習慣はほとんどの児童に身についた。毎日カードを出さないのもよかった。
- ₂ 家庭学習カードが改訂され、子供たちも家庭学習に自覚して取り組むようになりました。
- ₃ 低学年は同じ形式のカードを使用しましたが、少しずつ習慣化され来年度も継続するとよいと思いました。
- ₄ 「家庭学習カード」の改良により、時間の使い方を意識できるようになり、良かった。学習時間を積み重ねていくことで、1 か月「こんなに勉強したんだ。」と自分で振り返る姿や、友達の時間数を見て、奮起する姿が見られた。
- ₅ 家庭学習カードがかなり定着し、兄姉に倣って家庭学習ノートを行う児童がでてきています。
- ₆ 低学年は、家庭学習カードを毎日取り組みました。毎日取り組んだことを記入して捺印をもらう習慣が身についてきたと思います。
- ₇ 始まる前は不安でしたが、児童の工夫がみられるようになり、「自ら学ぶ」自学ノートを作れている子供も多くみられます。
- ₈ とてもよかったので、今後も継続して取り組んでいきたい。
- ₉ 一人一冊ノートを支給することで、意欲的に家庭学習に取り組む子供が増えました。
- ₁₀ 家庭学習カードが改正されたことで、計画的に取り組み、少しずつ取り組む時間が長くなったと思います。
- ₁₁ 良かったと思います。全校で統一して進めていくことで、学年が上がっても継続して続けていけるとと思います。
- ₁ 毎日漢字練習、計算練習の児童も見られるので、マンネリにならない指導が大切であると考えています。
- ₂ とりあえずノートを埋める程度の気持ちで取り組む子供もいて、その都度、意欲を失わないよう指導をすることが大事でした。
- ₃ 取り組める児童は一生懸命取り組めるが、やはり個人差が大きかった。具体的に何をすればいいのか、そこで悩む家庭が多かった。
- ₄ 予定を色塗りするところは…意味をなしているのか…すみません。

【まとめ】

おおむね本年度の取組についてはよかったといえる。特に習慣化されたこと、自ら学ぶことなどが成果としてあげられる。一方で、●の記述が多いのも気になる。●₁～●₃は、ほぼ同様の記述内容であるため、多くの学級担任が感じている課題といえる。また、●₄にあるように、家庭学習カードについても、よりよいものを模索していきたい。さらに、家庭学習をはじめとする学力向上のための手立てについて考えていくことが、今後の課題である。

3. 研究の方法について

(1) 一人一実践を各ブロックで見せあう方法について

【先生方からのご意見】

- ₁ こんなにたくさん見合う機会はなかなかないので、とても勉強になりました。自習にする回数が増えますが来年度も継続してほしいです。
- ₂ 指導方法を学ぶことができました。
- ₃ お互いに授業を見合うことで、ほかの方の授業の工夫に気付くだけでなく自分の課題も見えてきました。
- ₄ 実践後に振り返りを行い学年の先生方にご指導いただいたことで、さらに深めることができた。
- ₅ 先生方一人一人が多様な工夫をしている姿が見られ、勉強になった。板書の書き方、利用の仕方が参考になった。
- ₆ 普段、他の先生方の授業を拝見することができないので、ブロックの先生方の授業を見させていただくことは、大変ありがたかったです。勉強になりました。
- ₇ とても勉強になりました。
- ₈ 先生方に見ていただくことで、多くのご指導をいただくことができ、大変勉強になりました。逆に、見させていただくことでも、勉強になることが多かったです。
- ₉ 授業者だけに負担がかかることなく、全員が研究に関わっている（自覚）をしっかりと持つことができたと思う。様々な先生方授業をみることで、様々な視点で自分の授業を振り返ることができた。
- ₁₀ 自分の授業改善にもつながったと思う。
- ₁₁ 他の先生の授業を見に行かせていただく機会もないので、とても良かったです。
- ₁ 授業を見に行くことで勉強になるのでよかったが、見せ合っている内容について実践シートを見せ合うのでただの報告的になってしまった。
- ₂ 自習が多くなってしまったことがきになりました。
- ₃ 自習が多くなってしまふことが心配でもありましたが。
- ₄ 低学年で自習が続いたので、そういった点では、心配でした。
- ₅ 授業の日が同じ日であったり、近かったなのでその期間は自習が多くなってしまいました。1学期、2学期と分けてできるといいのかなと感じました。

(2) 授業実践シートにまとめる方法について

【先生方からのご意見】

- ₁₂ A3、1まいに簡潔にまとめる方法はよかったと思います。
- ₁₃ 授業を進めるにあたって、どこがポイントになるか、また、指導の工夫がわかりやすく見やすいシートになっていると思いました。
- ₁₄ 形式が分かり易く、1枚というところが見やすく良かった。
- ₁₅ シートが分かりやすいので、それぞれ参考になると思います。

○₁₆ 授業のしかけがわかりやすく見やすいシートになっていると思います。他の方の実践も、拝見してみようという気持ちになります。文字が多いと、どうしても読むのに億劫になってしまうので、よいまとめ方だと思います。

○₁₇ 自分自身の授業を振り返る、いい方法だと思います。

○₁₈ 自分の実践を振り返ることが出来るためよかった。

○₁₉ A4 サイズ 2 枚に収めること・写真・図などを織り交ぜて掲載していること。ポイントを絞った内容。など、シンプルでしかもわかりやすい形式だった。

○₂₀ 一人一人が振り返りを行うことが良かったと思います。自分の授業の教材研究はしても振り返りはなかなかしないので、1年に1度、こういった機会があってもいいと思いました。

●₅ 実践後に、授業実践シートに書く内容を確認したので、問うべき問いがきちんとできず、まとめるのに詰まってしまいました。提案の理解不足でした。

【まとめ】

今年度、授業力を鍛えるために、これらの方法をとった。普段、閉ざされた教室で日々授業を行っていると、教師は独善に陥りやすく、自身の授業についてメタ認知し、よりよい授業をしようとする意識が薄れてしまう。そのために「授業を見せ合う」「授業を終えた後、自身の授業を振り返るために『授業実践シート』を作る」ことを試みた。

今年度は、各ブロック 1 人（低学年…古屋愉子教諭，中学年…永井孝枝教諭，高学年…内藤陽介教諭）が全員参観の研究授業を行い、それ以外の先生はブロックの先生に授業を見せるという形式を取った。

○₉ の記述にあるように、全員が授業を行うことはよかったといえる。

この方法はよかったかもしれないが、提案内容・研究計画が稚拙だったために、授業実践シートの書き方が不明瞭だったことや、授業実践シートを用いた授業研究会を行う時間の確保が難しかったことなどが課題となった。

4. その他

【先生方からのご意見】

○₁ 自分が勉強不足のため、今年度の研究を継続しつつ、外国語についてもっと学習していきたいです。

○₂ 道徳が教科化になることで、評価も含めて道徳について、もっと研究をしたいと思いました。

○₃ 算数・道徳・外国語。盛りだくさんですが、どの研究も継続していきたいです。

○₄ 今年は、新学習指導要領の内容を探りながら、算数と道徳の二本立てで研究を進めました。個人的には、特に道徳を何とかしなくてはと思い、研究主任の提案のもと、学ばせていただきました。道徳的価値へ導けるような授業構成、多様な考えを引き出す発問、そして評価まで、来年度へ向けてもう少し掘り下げて研究を進めてもいいのかなと思います。毎回の校内研究会での、研究主任の提案が、難しい内容を分かりやすく噛み砕いて、私たちにイメージを持たせやすいように資料提示をしてくださり、大変勉強になりました。私たちが、子供たちに授業をするときも、研究主任が私たちに提案してくださった「しかけ」が大切ですね。本当にありがとうございました。

○₅ 研究主題のことだけでなく、外国語活動の勉強会を行っていただき、大変身になった一年でした。ありがとうございました。

○₆ 今年の研究の継続（3か年計画・・・）でよいと思う。

○₇ 道徳、外国語、新 cos と勉強することが多くありますが、まだまだ勉強不足なので、学び続けていかなければと感じた 1 年でした。

●₁内容を絞っていくとわかりやすいように感じた。

【まとめ】

いよいよ来年度は「特別な教科 道徳」の完全実施とその評価、「外国語・外国語活動」の移行措置が始まる。これらの実践・研究を行うことは急務であるが、先生方の「もっと学習したい」という意欲に励まされる。慌てず、焦点を絞って研究を進めてきたい。

5. 研究を終えて

今年度は、算数と道徳に的を絞って研究を進めた。目的は新 COS に記されたことの具体を探ることであった。算数では、既習をもとに学習をつくり出すこと、多様な表現や考えを出すこと、考えの根拠を探ること、次時の課題を学習感想にかくことなどの成果が得られた。道徳では、穂原校長先生のご指導のもと、起承転結を意識した授業を展開することで、葛藤が起こり、思ったことが自由につぶやけたり、ねらいに迫る価値を見いだせたり、さらには自己の変容に気付いたりするなどの成果が得られた。

新 COS に書かれていることは、従来の日本が育成を目指してきた学力に、OECD の「キー・コンピテンシー」の学力観（技能や態度を含む様々な心理的・社会的なリソースを活用して、特定の文脈の中で複雑な要求に対応することができる力）が加わったものと解釈できる。知識・技能、表現力や思考力を身に付けさせるだけでなく、それらの活用の仕方や、自分自身で問題に気付き解決に向かう意欲、さらには多様な集団における人間関係の構築などを育成しなくてはならない。今、学びの大きな転換期を迎えている。このように考えると、今年度に得られた成果だけでなく、もっとたくさん育成を目指すべき資質・能力があるといえる。

来年度以降も、自ら問いを持つことができる子供を育成するために、われわれができること、すべきことを問い続けていきたい。